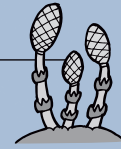


学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会



- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ

チヨコボラプロジェクト第5弾 地域も公民館も元気モリモリ

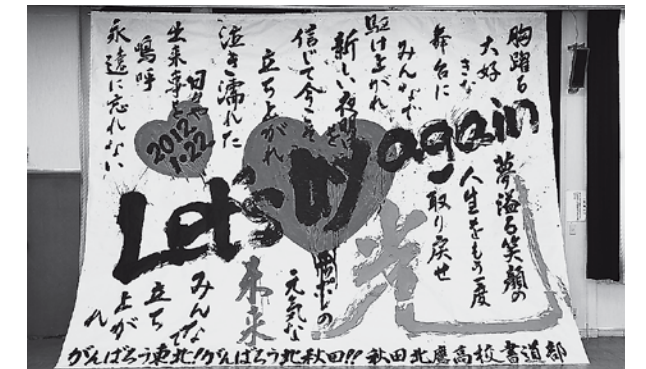
～高校生に学ぶー地域・元気力・UP!研修会～

地域の元気を公民館から!をテーマに、「高校生に学ぶー地域・元気力・UP!研修会」が1月22日、交流センターで開かれ、秋田北鷹高校と能代北高校が書道パフォーマンスを、十和田高校がボランティア活動の実践発表を行いました。

このうち、秋田北鷹高校書道部は、「東北&秋田を元気に!」をテーマに、縦4m、横5mの紙に東日本大震災復興を祈念し力強い作品を書き上げ、会場からは大きな拍手が送られました。

午後からは、弘前大学生涯学習教育研究センター

の深作拓郎先生を講師に、参加者が高校生の地域活動と公民館のあり方について探りました。



▲作品は3月17日まで中央公民館ホールに展示中

自分らしく、心をこめて

～合川公民館「絵手紙入門講座」～

合川公民館の定期講座「絵手紙入門講座」が1月11日、旺玄会委員で秋田美術作家協会会員の新田チマさんを講師に始まりました。

受講生は、消しゴムをカッターナイフで削って自分の印鑑を作ることから始め、筆の使い方の練習後、チューリップを青墨と顔彩で描き1枚のポストカードに仕上げました。講師の新田さんは、受講生の作品を並べ「同じものは1つも無く個性がでていて素晴らしい」と感心していました。

受講生は「楽しく、夢中になってしまった」「こ

の次はもっとうまく描きたい」と意欲を見せていました。この講座は、3月まで行われる予定です。



▲チューリップを題材に絵手紙を作った講座

図書館からのお知らせ

4月1日から市内図書館、公民館図書室がネットワーク化されます。これに伴い、図書を借りるときは「図書貸出カード」が必要です。また、図書の貸出冊数、貸出期間が変わります。

図書貸出カードについて

図書貸出カードは、鷹巣図書館、森吉図書館、合川公民館図書室、阿仁公民館図書室の4館共通で使用できます。図書を借りる方は、住所・氏名の確認できるもの(健康保険証・運転免許証・生徒手帳など)をご持参の上、最寄りの図書館・図書室でカード交付の手続きをしてください。(交付は3月26日から開始)また、すでに鷹巣図書館の貸出カードをお持ちの方は、これまでどおりにご利用することができます。

図書の貸出冊数と貸出期間について

■貸出冊数	現行	変更後
■貸出期間	10日間	15日間

※貸出冊数は4館合わせて貸し出しできる冊数です

映像資料の館内利用について

映像資料(DVD)などを館内で利用することができます。映像資料は館外への貸出はできません。

森吉公民館公開講座

■エコクラフト教室

期日 3月6日(火)～7日(水)
時間 10時～15時
場所 森吉コミュニティセンター
講師 菅原知明氏
内容 2日間で浅型バスケットや小物を作製します
持ち物 昼食、木工用ボンド、洗濯バサミ20個、ものさし(30cm)、ハサミ、目打ち
申込締切 3月5日(月)

■ホワイトデー

「フリザーブドフラワー」教室
日時 3月13日(火) 10時～正午
場所 森吉コミュニティセンター
講師 北林玲子氏
持ち物 はさみ
材料代 3000円
定員 15人(先着順)
申込締切 3月9日(金)



■春のおはなし会
「人形劇で楽しませよう」

期日 3月27日(火)
時間 13時30分～14時30分
場所 森吉コミュニティセンター
対象 幼児、小学生、保護者
講師 おはなしボランティア「にじいろばれっと」
※参加費は無料です

第3回ろばた講座

■浜辺の歌音楽館コンサート

期日 3月13日(火)
時間 13時30分～15時
場所 合川農村環境改善センター
講師 戸嶋喬氏(秋田県文化財保護協会阿仁支部長)
演題 阿仁歴史物語「阿仁鉦山と阿仁街道(仮題)」

■第85回浜辺の歌音楽館定期演奏会

による春のサロンコンサートです。
期日 3月24日(土)
時間 14時開演(開場13時30分)
場所 浜辺の歌音楽館
入場料 大人1000円、高校生以下500円
チケット販売場所
中央公民館、浜辺の歌音楽館
■浜辺の歌音楽館少年少女合唱団
スプリングコンサート



成田為三先生の名曲のほか、秋田県ゆかりの作品、その他子どもたちが大好きな曲を演奏します。
期日 3月24日(土)
時間 19時～20時30分
入場料 無料



ふるさとの文化財

48

北秋田市指定有形文化財 (建造物)

○「比立内発電所跡」

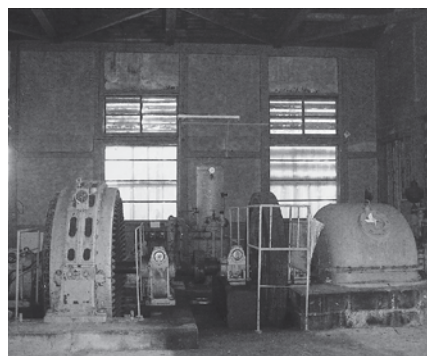
◇所在地 阿仁比立内字猿倉1-23
◇所有者 北秋田市

古河鉦山発電所として鉦山の照明・坑内水を排除する動力のため明治43年11月竣工、同月23日より運転を開始しました。ドイツシーメンス社製の交流発電機が使われ、当時としては45万円という大金を投じて建設され、一般家庭にも配電されました。

古河鉦山から北海道電燈、大日本電力、東北配電株式会社と経営が移り変わり、昭和26年5月から東北電力比立内発電所として営業されましたが、昭和48年水力発電の維持管理費高により廃止されました。

発電所跡は国道から近く、道路はよく整備され、近くに流れる比立内川は清流で、新緑や紅葉の季節には訪れる人も多く散策にも適しています。比立内地区の貴重な歴史文化遺産となっています。

◇発電の歩み
日本で最初に電灯がついたのは、明治11年(1878年)東京大学



▲旧比立内発電所の交流発電機

での「アーク灯」の点灯です。秋田県内では明治31年茶屋庫発電所(荒瀬向岱)が最初の発電所といわれています。
また、昭和33年の秋田県政ニュースの中で、「さよならランプ生活」として、旧鷹巣町岩坂地区の開拓地に電柱が設置され、子ども達とその周りで遊んでいる様子が映像として残されています。
昨年は、東日本大震災により節電が求められる中、改めて電気の大切さを感じています。
▽平成4年3月31日指定史跡
▽資料 「公文書館資料に見る近代秋田の電気事業」、「東北の電気物語」、「阿仁町史」、「阿仁の文化財その1」
▽紹介者/北秋田市文化財保護審議会委員 照内捷二